

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK

おしっこれくしょん 重巡洋艦編

Piss-Colle-Heavy Cruisers

Volume 09 for ADULT ONLY

任務司令艦 大淀の機密日誌より

艦娘とは何者であるのか？ 軍上層部でそんなことを真剣に議論できるほどには、戦況は落ち着いている。とりあえず、外見年齢や精神年齢、知能は思春期前後の女性である。自分や明石（自分たちの正体がそれとわかるまでしばらくかかったのだけど）を除けば、初期に現れたのが幼い駆逐艦娘ばかりだったため、母性を期待してわが提督に丸投げしたのが、今となつては功を奏しているように思える。……提督が重度の小児性愛者かつレズビアンだったのは、まったく想定外だったと思われるが。

しかしながら、怪我の功名というべきか。艦娘の性愛という視点を提督がもたらしたのは、人間が艦娘を理解するうえで重要な出来事だった。人間よりはかなり霊的な存在であるがゆえに、性的な要素が、艦娘の前世、ひいては現世における能力の発揮具合にまで深くかかわっている。より効果的な運用のために、艦娘のセクシュアリティを掘り下げねばならない。提督の私的な趣味から始まった一連の調査は、容易には動かせない大型艦にかわって日夜八面六臂の活躍をしている、重巡洋艦に及ぶこととなつた。不肖、軽巡洋艦大淀がその任にあたる。身が引き締まる思いである。

……明石さんが多忙で欲求不満なのを満たせるからではない。決して。

青葉型二番艦 衣笠

下着姿

重巡洋艦のなかでもいつとう女子力の高い衣笠さん。重巡では古くて小型だった昔を思わせないうらい、大柄かつないすばいなんですが、よく所作を見てみると随所に幼さが見え隠れ。何かとお姉さんぶった言動を見せるぶん、余計にかわいらしいです。

胸部装甲・陰部

「はあん。衣笠さんのえっちな身体が好き……」
 「え、えっちな身体って」目を回しかけている衣笠さん。秘書艦をやっているときは執務室で提督に触られて触り返したりしていましたが、そのあとで鷹さんに泣きついたりしているんですよね。お人よしすぎて提督にあまり強く出られない。占鷹さん少じ気の毒。「とかなんとか言いつつ全力で胸を揉んでくるし……まあ、大淀さんならいいけどさ」
 「ふふ、役得です」生え際の整えられた陰毛を撫でました。「ひゃん」
 「お手入れしてるんですねお姉さんたちと違って」
 「古鷹姉さんも青葉も、気を遣わなさすぎるのよ……加古は、まあ、処する必要もなさそうだけどもね」微妙な間がありました。加古さん、ね。



性器

お尻から回した手で、くばあと広げてもらいました。むわっと漂う匂いが鼻腔を直撃します。「あっ……見てるだけで私まで濡れちゃう」「大淀さんのえっち」衣笠さん、半泣きです。「素敵です、衣笠さんのここ……ひだは薄いけどしつかり色づいてて、穴のかたちが綺麗で、いやらしくて……触りたいけど、そこまでしたらお姉さんたちに怒られちゃいますね」「……青葉たちはやることやってるもの？」「口をとがらせる衣笠さん。」「あなたはどうなの？」「ここを触ってほしい人とか」「……き、衣笠さんは別に」「加古さんは？」「なっ、なんで加古が出てくるのよ！」「衣笠さんの声が明らかに上ずりました。」「あいつは……」「青葉さんと古鷹さんを仲直りさせようとして、加古さんどずいぶん近づいたように見えましましたよ」「……よく寝ぼすけで、わかんない。寝ぼすけでも作戦にしたらなくて、でも作戦に」と急ぎに生き生きして、たまにすぐくお姉さんにも見えて……」

自慰

親友である鈴谷さんに教わったお漏らしオナニがやみつきになつてしまったので、場所が限られる、とぼやくのを拝み倒して、日の前でしてもらいました。「……っ、……」ぱくぱくと、声にならない声で、誰を求めていられるのでしょうか。私の中には「あ」と「お」の形に、口を開いたように見えました。姉たちの愛情を、身に受ける衣笠さん。少し、羨ましいです。私にも妹が、できるはずだったんですけど……」

放尿

「大淀さんの変態……」いわゆるM字開脚の姿勢で、じよばあ……と勢いよく排尿しながら、衣笠さんがしゃくりあげています。「ごめんなさい。あとで私も見せますから……」。綺麗よ、衣笠さんのおしっここ「うう」衣笠さん、泣いているわけではなく……興奮しきつているんです。「えっちな気分？」

妙高型 一番艦

下着姿

……はい、自分からお話ししますね。重巡洋艦妙高です。この子は、言うまで12もありませんが、陽炎型駆逐艦の初風ちゃんです。かわいいでしょう？……あなたはご存知ですよ。間接的にですが、私がかつて沈めた子なんです。こんなふうな懐かれる資格、私のような者にあるのが、今でも自信がありません。

胸部装甲・陰部

さすがに少し……恥ずかしいです。あんな、そんなところ……硬いでしょう？、戦うための身体ですもの。それなりに自負心はありますが、高雄さんたちのような女性らしい身体つきに、時には憧れてしまいますね。……あつ、大淀さんもその、しなやかで魅力的だと思えますよ？ 明石さん、仲良く……なさっているんでしょう？……すみません、品のない質問を。えっ……ええ、そうです。正直に申し上げます。初風ちゃんと……時々……寝ています。



性器

よく見えるでしょう？　ここは、こんなふうになつて
 いるのよ。いつも部屋を真つ暗にするから、わからな
 いわよね。なんだか、ぐねぐねして薄気味悪いわよね。
 初風ちゃんのは、とても綺麗で、かわいいですよ。あ
 ……ん。おつゆがそんなに、出で、かき混ぜて、掬つてほ
 え…初風ちゃんにさわつて、かき混ぜて、掬つてほ
 しくて、濡れているのよ。

自責

私は真面目すぎると、那智や高雄さんによく、叱られます。真面目すぎて、
 そんなふうに背負いきれないものまで背負つてしまふんだと。わかつてい
 ます。こんなことをしていても、どうにもならないと。これが懺悔だなん
 で言つたら、妹想いの陽炎ちゃんにひっぱたかれるでしょうね。でも…
 あの夜、初風ちゃんの艦首といつしよに、何か大切なものをこつそり奪つ
 ていつてしまったような、私自身も何か落としてきてしまったような、そ
 んな気がしてならないんです。それを取り戻すまでは、私はこの子を…。

放尿

や…あつ！　初風ちゃん、おしっこ熱い…
 んッ！　ククリに直接…私も、出ますッ！　あつ、
 やだ、脚に当たつちゃう…！　お、おしっこ、
 混ざつてる…あつ、来る、来る来る、ッッ！
 は、初風ちゃん、キス、して…首、絞め、て
 …ぐう、うううううッッ！！　ひぐ、ひぐッ！！

妙高型二番艦 那智

下着姿

ああ、よろしくお願ひする。……そうか、姉止は初風と来たのか。仕方のない人だ。いや、この那智もあまり人のことは言えないな。この子は特型駆逐艦の曙。いささかおとなしいが、いい子だぞ。……なに？　ほう、面白。気が強く口が悪い。普段の曙も見てみたいものだな。……私の下着？　ご覧のとおり支給品だ。まあ、動きやすさと耐久性と吸水性で選ぶはおのずとこうなる。曙のは、年相応でかわいいな。

胸部装甲。陰部

ん……気恥ずかしいな、こういふのは。私とて恥じらいはある。足柄などに比べれば、ごつごつするばかりで性的魅力というものには欠けると思ふが。……あ、ああ、その……下はな、刺つてゐるんだ。作戦行動中に蒸れるのが好かないんでな。お、おい、大淀、曙、そんなにじっくり見つめないでくれよ……曙、どうした。鼻血が出てゐるじゃないか。大丈夫か？



性器

うう……どうにも、照れくさいな……。き、綺麗？
 そうだろうか。この美醜など考えたこともない
 んだが……。いや、私にもその、性欲はあるんだよ。
 あつ……。曙、急に撫ぜないでくれ……。うん。
 正直に言うよ。それは、興奮している……。証拠だ
 ……。貴様に押し倒されて、あの口のことを思い
 だして以来、こうなってしまう……。曙、身体が
 疼く……。冷まさせて、くれないか……。

関係

私の沈没に曙を巻きこんだことを、許してくれとは言わない。
 それは僚艦を救援するという義務を果たした駆逐艦曙の誇り
 を傷つけることになる。ただ、そのときのことをずっと忘れてい
 て、艦娘・曙をどうとう泣かせてしまったのは償わねばならない。
 こういふ関係を求められたとしても……。私の身体でよけれ
 ば、いくらでも差し出す。抱いてほしいというなら夜通じだつて。
 ただ……。心まで深くつながりあつてしまうことが、この子にとつ
 て幸せなことなのか、甲斐性のない私では図りかねるんだ……。

放尿

あつ……。いい……。曙……。出すか？ いいぞ。
 私が広げるから、そのまま……。ん、出ているな……。
 曙、私も出すよ……。ああ、気持ちいいな……。曙？
 気を遣ってしまったか。うん……。私の手で達してく
 れて嬉しいよ。少しでも、貴様には報いたいんだ。

妙高型三番艦

足柄

下着姿

足柄さんです。あ、大淀が記述しています。妙高型は羽黒さん以外揃って170センチを超え長身なんです。足柄さんは体格がよいだけでなく、たいへん豊かな肉体美を備えています。本人はずっと、戦闘艦としての精悍さだと認識していたようです。何言ってるんだか。あなたが、あなたの手で、女として目覚めさせたんじゃないの？「ちよつべん」な言い方しないで！……否定しませんが。

胸部装甲

足柄さんは、フィリピンのミンドロ島へ上陸中の米軍を叩いた礼号作戦でも行動した問柄です。艦娘として再会してからもすぐに旧交を温め……温め……正直に告白します。加占さんとは触りあいまででしたが、足柄さんとは……セックスしました。何度も。むしろ、占鷹さん並に軍艦すぎた彼女を、私が「娘」として開発したんです。足柄さんの乳はワシが育てた……なんでクリシエも、的外れではないかも。

陰部

濃い陰毛が目を引きます。その下は……何度も、触れた場所。軍艦意識が色濃く残っていたころは羞恥心も薄く、入渠明けに裸で歩き回ることもさへしていました。今でも、ここを他人に見せることにあまり抵抗はないようです。「ちよつべん、変態みたいに言わないでよ。私だって少しは恥ずかしいわよ？」でもこれは、必要なことなんです。」



性器

やばいと思いました。性欲を抑えきれませんでした。しばらくぶりの足柄さんの身体は、熱くて、柔らかくて、逞しくて……。「久々に、触ってみる？」潤んだ目で私を見つめながら、大きな指でそこを押し広げる足柄さん。充血しきって膨れた、真珠のようなクリトリスが自己主張しています。「濡れて、熱いわ」肉厚の小陰唇を、てらてら光る尿道口まわりの肉壁を、深くどこまでも啐えこむ腔口を撫ぜると、足柄さんは狼のような唸り声を切なげに上げました。私の股間から出た愛液が太ももに伝い、冷えてこそばゆいです……。

放尿

「大淀……、おしっこ……」幼子のような口調の足柄さん。「おしっこ出す？ いいですよ」私は内股をさすつてあげます。「ちい、ちいっ」「んふ……」やがて、すっかり開いたそこから、じよばじよばと放尿が始まりました。「や……ん」「す……ごい量」じよるる……朝から溜まっていたのか、色も匂いも濃厚なおしっこの勢いはなかなか衰えませぬ。「二人とも興奮しすぎて、蚊が止まったただけでもイッてしまえそう……あ、蚊が私の肩に。あ、あッ……」本当にイッてしまいました……連鎖反応で足柄さんも、排泄しながら絶頂。何やつてるんでしよう、この雌2匹。

自慰

「こめん……」ね息も絶え絶えクリトリスを包皮の上から激しくこね押しつぶす足柄さん。「私……オナニ教えてくれた大淀の目の前で、那智のごと相つてオナニしてる……」

妙高型四番艦

下着姿

羽黒

再三申し上げますが大淀はロリコンではありません。いいですね？「アツハイ……」
 日の前で縮こまる下着姿の羽黒さんと、隣でドヤ顔の那珂ちゃんを見比べます。む
 ふへへ。末っ子どうし仲のいい二人ですが、羽黒さんはお姉さんたちに比べてずいぶ
 ん小柄で、那珂ちゃんと体格的にほとんど愛変わらず、半ばくらいの見え目です。
 ……むふへへ。

胸部装甲

「あ、あんまり見ないでください……」かわいいですよ、羽黒
 さん。那珂ちゃんも、羽黒ちゃんのおっぱい大好きだよ。阿賀
 野ちゃんのと違うよさがああるよね。そういえば那珂ちゃん、
 阿賀野さんと堂々と二股かけてますね……。

陰部

「ふふええ」「よしよし、那珂ちゃんがついてる
 からね。羽黒ちゃん、毛が薄くて、割れ目もき
 れいでしょ？」「じゅるり……はっ。な、那珂ちゃ
 ん、意外と恋多き女ですよ。ねん？」だって、
 アイドルだもん！」「中し訳ないですが多方面
 に暗唾売る発言はNGですッ！」

性器

え……と。なんとというか、目の前でアイドルが年上の女の子を食っています。ヤバイ、です。今はね……アイドルじゃないの。髪、下ろしてあるから。ただの、えっちな軽巡洋艦「ああッ」「んぶッ」羽黒ちゃんの、すぐ濡れちゃっ「おまんこ、好き……」

放尿

まるで熟練した掌機長のよう、那珂ちゃんが念入りにポイラーを暖め、回転を上げていった結果、いまや羽黒さんは最大戦速に仕上がっています。つまるどころ、乱れまくっています。那珂ちゃんにまたがり、大またを広げて、「な、那珂ちゃん……で、ます」言うが早い、しぶきを上げて勢いよく排尿。水流はあやまたず那珂ちゃんのクリトリスを直撃しました。「あ、あ、気持ち、はく、おしっこ気持ちいいッッ!!」あられもなく、わめきながら、ふしゃあとおしっこを吹きだす那珂ちゃん。「イッ……く!!」人ともほとんど暴れるような勢いで身体を震わせて絶頂し、おしっこを撒き散らしています。「ん、ん……ッ……」不肖大淀も、目の前の光景を肴に、美味しくいただきました。

「……あなたは何をしたいの?」つて、姉さんたちによく訊かれています。あ、いえ、今でもしよちゆうで、もっと自分の意志を優先してもいいのよって、足柄姉さんにお説教されちゃいます……。私は、皆さんをお守りできれば、それで十分だったんですけど、その……那珂ちゃん、こっ……いう関係になつて、だんだん、私も欲を出していいのかもって、思えるようになってきました。あつ、いえ、えっちなことをしたいってわけじゃ……少し、あります、けど……実は性欲強かったみたいで……最近、は毎晩ひとり……そ、そうじゃなくてえ! こほん。艦娘つてやつぱり、娘なんですよ。艦として使命を全うすることと同じくらい、娘として生きることも大事なんだって、司令官さんがいつも仰っていること、ようやく、わかってきた気がするんです。これ、那珂ちゃんはもちろんですけど、足柄姉さんがだんだんそうなっていた……つまり、大淀さんのおかけでも、あるんですよ? えっ? し、知ってましたけど、えっ? 秘密のつもりだった? えっ? たぶんみんな知ってますよ!

高雄型一番艦

下着姿

あ、鳥海です……。ええと、高雄姉さんとお互いにレポートしあう……。という趣向です。恥ずかしいですけど、頑張ります。高雄姉さんは……。皆さんご存知のようにとでもその、豊富な身体で羨ましいです。でも、単にぼいんぼいなだけじゃなくて、普段からかなり鍛えてもいるんですよ。私は高雄姉さんの腹筋が好きです。もちろん……。お胸も好きですけど。下着は黒系の、大人っぽいのが多いです。私にはこういう下着は、まだ早いです……。

高雄型四番艦 鳥海

高雄です。提督にも困ったものだから……。なんて思っていたら、大淀がなんだかとても乗り気なので驚きました。愛宕ならともかく、真面目な鳥海とこんなことをするなんて……。ちよつと罪悪感がありますね。さておき、鳥海は謙遜しているけれど、姉の欲目を差し引いてもいい身体だと思いませんか？！摩耶よりも引き締まっているでしょう。あの子はちよつと食べすぎね最近下着も年相応で可愛いと思います。私も……。本当はこういう、可愛い下着が好きなんです。よ？ サイズがどうしても……。ね。



胸部装甲・陰部

え……ど。脱ぐのは、いいとして、なんでこんな格好なんだろうか……。コホン、高雄姉さんのお胸、すてきです。え、いいんですか。じゃああの失礼します。ふわあ。すみません。本当に大きなお乳って、持ち上げるのに力が要るんですね。すみません。度々、じつくり触ってみたいと、ころそり思っています。いやらしい妹で、ごめんさい……。……下のお毛々は、お手入れしているけれど、案外薄いですよ。その、見えちゃって、ます。

あ、あんまり妹にべつなごときさせないでね？ 私は、まあいいけれど、自分の胸、イヤでことはいいです。大きな艦橋はやっぱり見映えがしましたじ。駆逐艦の子たちが触りにくるのも、当時を思い出すよ。ね？ ただ、鳥海くらのサイズのサイズもいいなあって思うの。そもそのころは、改装を経ないまま戦いに身を投じたこの子の艦橋のほうが大きかったんですよ。このへんは姉妹感を楽しめるようになっていう、船神さまの思召しかしらね？ ……え、下の毛は別にその、個人差があると思うけど。

放尿

……この行為に何の意味があるのかなんて、考えたら負けだと思いましたが。私たちはあまり遠征には出ませんが、作戦行動中はやむを得ず川を足すことはあります。まあさすがに、大っぴらに連れシ……コボシ……連れ立ってなんでもいけません。なので、こうして高雄姉さんと一緒にすることなんてはじめてです。しゃがみこんで、足のあいだからお小水が出ていくのを見てみると、まるで自分が小さい駆逐艦の子になってしまったようで……。「鳥海、大丈夫？」真つ赤な顔で、それでも気丈に、高雄姉さんが気遣ってくれます。「……お姉ちゃん、思わず、回をつけて出た言葉に我ながら驚きました。」

なんだか、幼い人間の姉妹になったような気分で、かなり変態的な興奮がこみ上げてしまいます。うう、妹の目の前で放尿しながら、妹のソレに発情してしまうなんて……愛宕や摩耶にどんな目で見られるか。「お姉ちゃん」鳥海が聞いたことのない声で私を呼びました。「……私、本当はもっと、お姉ちゃんたちと一緒にいたかった。」鳥海……。「高雄型は指揮能力に優れているため、各艦が戦隊や艦隊の旗艦として散らばる傾向にありました。本当に久々に姉妹がそろい踏みした捷号作戦は、あんな結果に……。「そうね……私ももっと、あなたと一緒に戦いたかったわ」地面に広がる鳥海のビルジに目を落としながらつぶやきました。「でも、そのぶん、今はこうして一緒に過ごせている。それだけで、私は幸せなのよ。」うん……うん……。「泣かないで……ッ」二人とも、いつしかしゃくり上げていました。大淀、これでいいのよね？



高雄型三番艦 摩耶

下着姿

ハアイ、愛宕よ。楽しそうなこと始めたのねえ。摩耶ちゃんどふたりで……
なんて、お姉ちゃん嬉しいわ。ホラ、かわいい下着でしょう？ え、意外？
そうかしら？ だって摩耶ちゃん、普段からとつてもかわいいもの、ねえ。
身体も……ね？ でもちよつと、最近余分なお肉がついちやうたかしら？

高雄型二番艦 愛宕

う、ううう……なんで摩耶さまがこんなこと……う、うっせえ、裸見せるなんてハズいに決まってるだろ！
愛宕もなんか言えよ……あ？ やめ、かわいいとか言うな！ フツの下着だろ！ なんだよ、いい感じに
改造したつてのに、愛宕はいつつも、かわいい、かわいい……ガラじゃねえよ……愛宕の下着？ ま
まあ、インじゃねえのか？ 高雄より、なんつーか甘めだよ。……かわいいってこういうの？ ア
タシは全然……。



胸部装甲・陰部

はい、摩耶ちゃん笑って笑って。あら、胸が接触しちゃった。昔なら大事故ね、うふふ。んー……摩耶ちゃん、再改造して、ますますおっぱい大きくなったわねえ。ふにふにして、とつてもいいさわり心地よ？ 鳥海ちゃんよりも、あちこち丸っこいのよ。ね。二人ともとつてもかわいいわよ。ほら、ここも……ふさふさ。すっかり、お姉さんになったわね。

くっそ……この姿になつてからずっと思ってたけど、愛宕は何なんだよ、いちいち無駄にエロい言動を……。イヤ、お前に白覚が無くても周りにはつこう振り回されてんの！ こんなお前、若い女だらけのところではれさあ……ふわあ！ む、胸が……。う、やーらけえ……。ほんと！ほんとさあ、軽率にヒトを抱き寄せるのとか、ドツクで裸でくっついてくんのとか、やめろよなあ……。あつ……。け、毛をさわるな！ こつちもさわり返すぞ！ え……。い、いいのかよ……。じゃあ……。アタシより、少ねえよな……。ほんとに下も金色なんだな……。き、綺麗とか思ってたねーよ！

性器

摩耶ちゃん……怖がらないで、ね。傷ついたりしないから。力抜いて。ん……かわい。綺麗よ、摩耶ちゃんのこと。本当よ。ううん、色も形も、全然おかしくなんてない。摩耶ちゃんも立派な艦娘、女の子である証。広げるわね。うふふ……湿ってる。……気持ちよくなっちゃうた？　こうしてさわって……気持ちよくなるわ。えっ？　自分のをさわると気持ちよくなるわ。えっ？　あはは……そりゃあね、私も女の子だもん。ひとりエッチは大好きよ。摩耶ちゃんもよくして、いるでしょう？　知ってるわよ、お姉ちゃん泣かないで、ごめんね、何か悪いこと言ったの？



ぐすつ、ひつく……。ごめん。愛宕……姉ちゃん、ごめん。……アタシ、姉ちゃんのこと、艦娘になつて再会してから、ずっとエロい目で見て……は、はじめましてひとりでシたとき、オカズに……。それから、ずっとそうなんだ……。アタシ最低だよ……。嫌いなならない？　……うん。……いいの？　アタシのこと嫌いなならないとかあ、あつさり言うなよお……うい、うええん……



い、いいの？　……アタシのこと嫌いなならないとかあ、あつさり言うなよお……うい、うええん……。……アタシ最低だよ……。嫌いなならない？　……うん。……いいの？　アタシのこと嫌いなならないとかあ、あつさり言うなよお……うい、うええん……。……アタシ最低だよ……。嫌いなならない？　……うん。……いいの？　アタシのこと嫌いなならないとかあ、あつさり言うなよお……うい、うええん……



放尿

摩耶ちゃん、私もごめんね。摩耶ちゃんが泣いちゃってびっくりしたけど、あぁ妹だなあ、かわいいなあ。あつて、思っちゃったの。ダメなお姉ちゃんでごめんね。あのときも、守ることもできずに沈んじゃった。高橋ちゃんからその後のことを聞いて、たくさん、泣いたわ。だからね。今度は、今度の戦いは絶対に4人で生き抜いて、そうしていつまでも仲良く、幸せにすごしまじはうね。約束よ。ん、じゃあ、誓いの……おしっこ。

うう……摩耶さま一生の不覚だよ。愛宕の前であんな、わんわん泣くなんて……恥ずい。死ぬる。でも、なんかスツキリした。胸のつかえが取れた。イヤ、さすがに好きなだけオカスにできていいなんてお墨付きもらったのは、呆れたけど……ごめん、たぶん今晚捲る。だつてこんな、おしっこまで……こ、興奮しないわけないだろ、愛宕と一緒にしつこするなんて。じゃ、じゃあ広げるぞ。あつ、アタシのも……う、うん、じゃあ、せーの……うあ、出てる、愛宕のあそこからおしっこじゃあ、せーの……うあ、出てる、の……勢いやべえな……あう、やべ、いつ……正、エロい……あー、アタシ軽く……イッた。気持ちよかった。昔、一緒に沈んだ姉妹と並んでおしっこするつて、しよーもないことなのに……こんな……幸せなんだなあ。



最上型三番艦

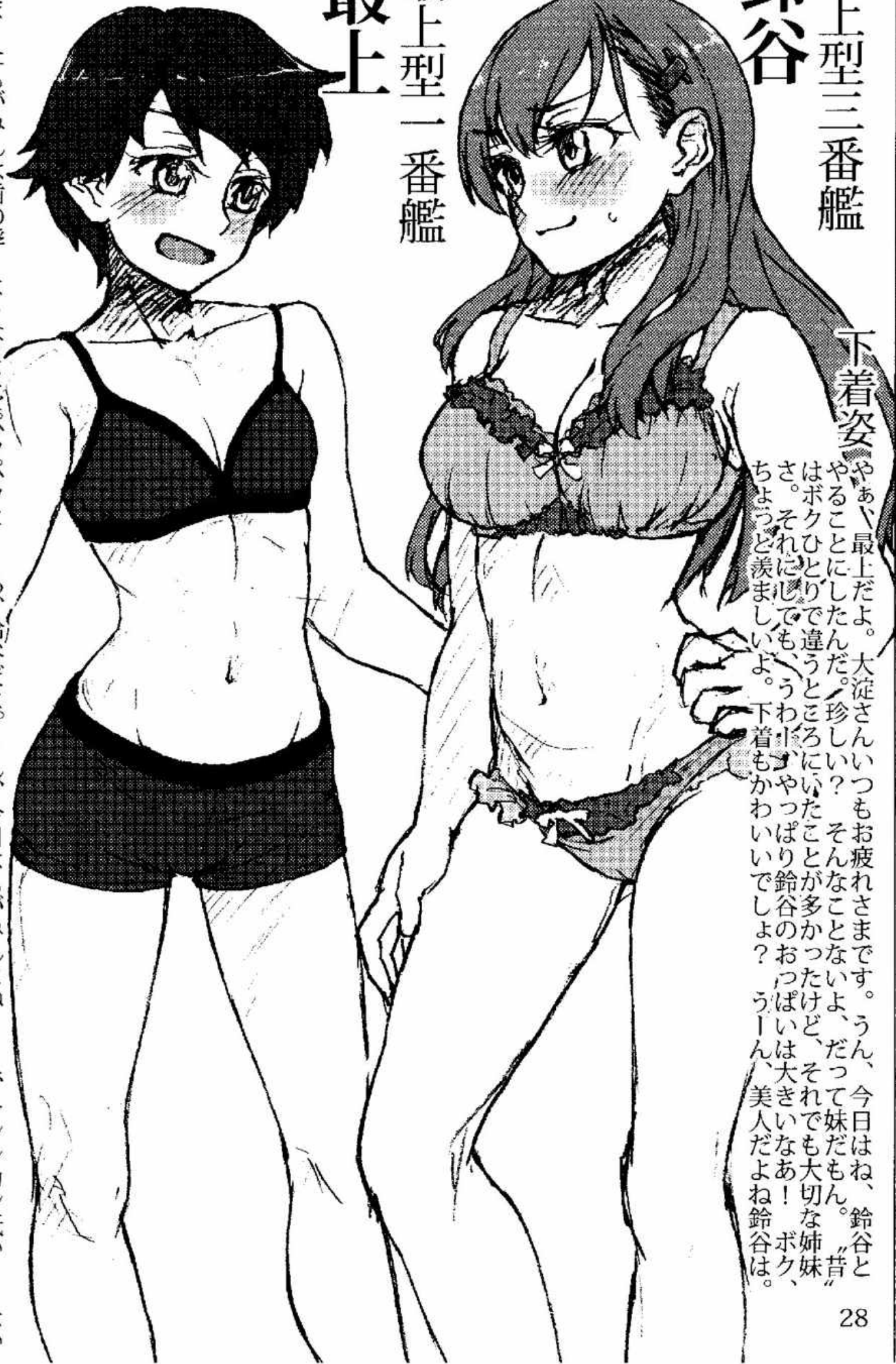
鈴谷

最上型一番艦 最上

下着姿

やあ、最上だよ。大淀さんいつもお疲れさまです。うん、今日はね、鈴谷とやることにしたんだ。珍しい？ そんなことないよ、だって妹だもん。昔はボクひとりでも違うところにあったことが多かったけど、それでも大切な姉妹さ。それにしても、うわ、やっぱり鈴谷のおっぱいは大きいなあ！ ボク、ちよつと羨ましいよ。下着もかわいいでしょ？ うーん、美人だよね鈴谷は。

ま、まーたもがみんなは歯の浮くようなことをペラペラと……あ、鈴谷だよ。うん、今日はもがみんなとね……え、テンション低い？ ない、ない、チヨ元気だつて！ ホラホラ、大天使もがみんなのブラとパンツだよお。こういうボーイツシユなのが似合うよねやっぱり。うん……すごく、かわいい。……鈴谷もね、けっこう、好きなんだこういう感じのが、ホントはね。でもほら、胸とかこんなじゃん？ うんか、似合わないのかな……つて。……もがみんなみたいだね、なれたらいいんだけどね。



胸部装甲・陰部

……あつ、だ、大丈夫。泣いてないよ！ちよつと……ハズ
 だけ。うん。……もがみんのか、おっぱい、ちやくでカワイイでしよ
 鈴谷のとは全然違う。……巡洋艦だったからかな？鈴谷とちつき……あ、筑摩の
 書類は二等巡洋艦だったか？感あるな！……割れ目見えてエツチ。そ
 し、下？……なんかわわなきやダメ？……
 んだけ！

鈴谷、大丈夫？ うん。お姉ちゃんがついてるからね。ガラじゃないって？
 ひどいなあ。ボクこれでも長女だよ。ふんふん。まあ、見た目は鈴谷のほう
 がお姉さんだけだね。いいな、このおっぱい。ボクもくまりんこも熊野も大
 好きだ、鈴谷の大きなおっぱい。下もね、たくさん生えてるの、大人っぽく
 て似合ってるよ。もちろん、刺っちゃっても素敵だけだ。だって鈴谷だもん！

性器

えへへ……なんだかちよつと、照れ
 くさいね。鈴谷、大丈夫？ うん、こ
 笑ったりしないよ。……ふうん、こ
 れが鈴谷のおまんまか？ え？
 そう？ ボクだつて知ってるさ、こ
 ういう言葉。これでもお姉さんな
 だつてば！ うん？ そんなことな
 いよ、グロくなんひだもかわい
 いクリも大きなひだもかわい
 よ。つん、つん。……どうしたの？
 あつ……おしっこ出ちゃったの？
 谷のおしっこ、はじめに見るなあ、鈴
 ん……しよっばい。えへへ。え？
 あれ？ な、泣いちゃダメだよ。
 ホラ、よしよし……。

……もがみんの前で大泣きしちゃった……
 熊野と……ときは丸出しだけとお、おしっこまで……
 えつて落ちついたかも。ちゃんと慰めてくれて、もがみん、
 私の憧れの……こ、こほん！ でもこつちは……うん……
 色でさ。熊野より……え？ い、いや鈴谷はそういう直截的な言葉使わないから！
 もーもがみんまでえ。は!? 自分もお漏らしするって、イヤ自分で出すのは漏らすつ
 て言わないから！ 別に鈴谷に気遣わなくていいって……あつ……出しちゃった……
 鈴谷ね、すつごくムラムラしてる……。……ごめん……今……

熊野、大いに語る

ふう。鈴谷にも困ったものですわ。あの子の最上姉様への憧憬の念、このわたくしが気づいていないとでも思っていたのかしら？ わたくしの確信するところによれば、艦娘は皆本能的に、姉妹艦、ネームシップへの強い慕情を抱くものなのです。その度合いはそれぞれですけど、もちろんわたくしにも、鈴谷型のネームシップでもあるあの子だけでなく、三隈姉様、最上姉様をお慕いしているわ。わたくしが七戦隊の旗艦であつたことも、影響しているでしょう。でも鈴谷は……あの子は誤解されがちで少々気の毒なのだけれど、本来の気性は最上姉様にとでも近いんですよ。これは大淀とわたくしの秘密にしていただけけれど、鈴谷って寝言で時折



「ボク」という一人称を使いますの。きつと夢の中では、最上姉様のように髪を短くして、ズボンを穿いて、活発に飛び回っているのでしょうかね。そういう鈴谷にもお目にかかりたいのだけれど、ホラ……ああいう身体でしょう？ それに……ね？ ああいうかたちをとらざるを得ない、性愛感覚を持つてしまった。とても気持ちよさそうに喘いでいるけれど……これは鈴谷の不幸なのかもしれないわね。咎めだてはいたしませんわよ。正直、一度鈴谷は最上姉様と肌を重ねるべきだとさえ思っていましたの。思い残すことはないほうがマシなもの……あとで、わたくしの前で、あの子は再び泣くでしょう。わたくしは受け止めますわ。受け止めて、受け容れて、わたくしの中でとろけさせてあげるの……それに、わたくしもね。思い残しはありますよ。ええ、三隈姉様のこと……

最上型二番艦

三隈

下着姿

最上型四番艦 熊野

ご、ごきげんよう。熊野ですわ。……な、なんのことやら？ わわわわたくし
緊張などしておりませんことよ、失敬な！ ……ごめんなさいね、正直に申し
上げます。三隈姉様はわたくし、いささか苦手で……いえ、嫌いとかではない
のだけれど、こう、調子が狂うというか……い、今だって、下着の上はどの
さったんですの？！ ひ、必要ですわ！ たしかにわたしたちは鈴谷以外、多
少平坦な身体つきですけれども、夕張の連れている駆逐艦の子たちほど幼児体
型ではございませんことよ！ ……じつかり膨らんだ乳房が丸出しではないの……

まあまあ、くまのんとお話できて、三隈とつても嬉しゅうございますわ。くまのん、普段はなかなか
相手をしてくだらないもの、姉としてはいささかさびしいのですよ。いい機会ですし、姉妹どうし、
親睦を深めましょうね。あらあら、可愛らしい下着。大人びた雰囲気がよく似合っているよ。お
乳の大きさは……まあ、鈴谷はそれがお好きなのでしょう？ わたくし、お乳を隠さないのははした
ないどわかっではいるのだけれど、昔、はまだ乳バンドをつけている女性なんて少なかったですも
の、どうしてもなじまなくて……



胸部装甲・陰部

あらあら、まあまあ、乳バンドの下はかわいらしいお乳なのねえ。白い肌、桜色の乳首が綺麗でしてよくまのん。このうつつすらあ。ぼらの浮き出た細い身体を、鈴谷に愛撫されてお好みに。か。こちらも……自分で剃つておいなね？ 駆逐艦の子のようにかわいらしい。割れ目だけ。鈴谷は小さい子が好みなのかしら？ 三隈も、なんだかいけない気分になっしまいましたそう。



うう、三隈姉様、そのように撫でられては、その、昂ぶってしまいますわ……。ええ。わたくしも、三隈姉様がただ苦手なだけではなく、鈴谷が最上姉様に対してそうであるように、淫らな欲望を隠し持っていることを告白せねばなりません。ひとりで慰めたことまでは……ないのですけれど、でも、はじめて見る、三隈姉様の秘所……おさねの皮が見えていたり、とても毛が薄かったり、わたくしよりよっぽど駆逐艦のようではありませんの！ うう。じ、自慰は我慢ですよ！

性器

み、三隈姉様、何故そのような熱いまなざしをお向
けになるの!? これはただ、艦娘の性意識を問うた
めの実験調査であつて……あ……いけませんわ。熊
野、確かに三隈姉様を想つて致してしまひます……
で、では失礼して……は!? みくまん……姉様ツツ!?
そそ、そのようにはしたくない言葉で……になさつて
はなりませんツツ!! そ、そりやあ、その部分のこと
はそう申すようですけれども、もつと雅なですわね
……く、熊野の口からは言えませんわ!! 三隈姉様
のいじわる……どう、つて? そ、そうですわね
……おさねの皮が大きいのだけね。おさね自体
はほとんど隠れて見えないうだけね。その下は、
ええ、薄紅色で小さくて……本当に、駆逐艦のよう
ですわ……。最上姉様は、これを……



今日は素敵な日ですわ。くまのんとお近づきになれるば
かりでなく、こんなどころまで触れさせていたげるので
もの。ふふ。先ほどくまのんにみく……あ、ごめんさ
ね。まんこを……え、違うの? とにかく、触られて、三
隈、とつても興奮してしまひましたのよ。せつかくです
ら、くまのんも気持ちよくなつてくま……あ、そのな
ど。……はあ、かわい。これがかまん……あ、そん
怖しい目で睨むのはおよいになつて。ここはとつてもか
らしいの。本当ですのよ。毛がなくて、花びらも薄くて
まるで子供のよう。ぼりいがか、あ、夕張のことですけ
ぼりいが見たらなんと仰るか? あら、おつゆが……感
くまのん、気持ちよいですか? あら、あなた三隈の顔を
てくださつて居るのね、ありがとう。あなた三隈の顔を
見るとすぐに避けてしまふから、こうしてじかに触れ
られて、三隈は本当に嬉しうから、こうしてじかに触れ
ち、もつと近づいてもいいんじゃないかしら?

くまのんの誤指示が引き金になつ
て、わたくしのお気がなさんだらな
ど、やがてわたくしのお気がなさん
ど、

放尿

……くまのん、くまのん、落ち着いで。
 “三隈”はここにいますわ。軍艦三隈も、
 軍艦熊野もとうの昔に沈んでしまっただ。
 でも、生まれ変わって、またここにいます。
 それだけで、じゅうぶんではないですか。
 誰を責めても、しかたのないことです。
 あなた、過去に囚われたままの青葉を占
 鷹に向き合わせるため、ずいぶん叱つて、
 励ましていたのでは、なくって？ ならば、
 どうかくまのんも、くまりんへの負い
 目などもうお捨てになつて、くださいまし。
 わたくしがあなたに望むのは、ただひとつ
 つ、わたくしと笑いあう関係になつてく
 ださることですのよ。……ね。……そう。
 ……ええ。ええ。ありがとう。本当に。
 さあ。澱んだ心など、お小水といっしょ
 に出してしましましょう。ふふ、くまの
 んと連れだつておしっこをするだなんて、
 とても素敵ですわ……。

さすがは姉……なので、熊野がほんとうに秘めていた気持ちなどありません。青葉にも一度面と
 あやされて、あんなに逆生じだわたくしを許してくださっている、認めるところが、
 うかつて指摘され、逆生じていなくなつたのです。いえ、そんなものはとうに水に流れて、
 向かつて過ちと向き合えていなくなつたのです。逃げだしてしまいましたが、
 らの犯した過ちと向き合えていなくなつたのです。逃げだしてしまいましたが、
 まったくのどきと、三隈姉様はとうとうじじめとした悔恨が、いま、股のあいだから流れでて、
 いかすよ。わたしの三隈姉様のとうとうじじめとした悔恨が、いま、股のあいだから流れでて、
 いっしょに、わたしの三隈姉様のとうとうじじめとした悔恨が、いま、股のあいだから流れでて、



利根型 一番艦

利根

利根型 一番艦

筑摩

下着姿

ふがふが。あらやだ、私ったら……筑摩です。す、すみません、いきなり鼻血
だばだば流しながら失礼します。だって利根姉さんの下着姿をこうして大淀さ
んに披露するなんて……んが。気を取り直して。大淀さんとは親しくさせて
いただいていますし、よくご存知でしょうけど、こう見えて利根姉さんはかな
りたくましいんですよ。ホラ、腹筋なんか妙高型のみなさんにもひけをとり
ません。腕も足も、細いけれど筋肉質で美しいです。スポーティな下着がよく
映えて……し、した……だばだば。ああ、また鼻血が。

利根である。筑摩はまた鼻血を出しておるのか、
しょうのないやつじやのう。どうもこやつは虚弱
でいかん、我輩のようにもっと鍛えねばな。大淀
もそう思うじやろ？……ん？ああ、下着か。
外部装甲があのようになつてじもうたからなあ、
「はいれぐ」にせねば普段からぱんつが見えてし
まう。我輩とてそれはちと恥ずかしいからな。イ
ヤ、こんなナリじやが、いちおう年相応の羞恥心
は備えとるつもりじやぞ……まあ筑摩のように
ごおじやすな下着は、到底似合わんがな。我が妹
ながら「よい身体をしておる。まあいささか脂肪
過多にも見えるが、これくらいのはうが女子とし
ては魅力的じやろう。イヤ大淀よ、そのように恨
めしそうな顔をするでない。おぬしは今のままで
明石に愛されておるではないか。違うのか？

胸部装甲・陰部

ちくま？ ちくまー？ むう、昇天しておる顔じゃな……。
ということは何か、我輩は自分の乳や……あそこについても紹介
せねばならんのか。なんともはや自分で言うのもナンじゃが
こう見えてそこそこ乳はあるのだぞ？ いや別に自慢したいわけ
ではないが……。で、し、下はまあ……ご覧のとおりじゃ。一
応、毛は生えはじめとる。まだまだ発展途上じゃがな。

筑摩はまあ、二等巡洋艦がかつての仮の姿だったとは思えないほどの威容
を誇るのう。このとおり、控えめな性質ゆえにいまひとつ目立たないのじゃ
が、時折我輩以外の、駆逐艦だの軽巡洋艦だのと一緒に入渠しておると、
周囲から驚きと羨望のまなざしを向けられると言っておった。むろん、乳
にじゃ。し……下は、この年頃なら標準ではないか？

性器

ぐはっ。……あのすみません大淀さん、少しお手洗いへ行ってもいいでしょうか。一度その……身体を鎮めてき
ます。(二五分経過)も、戻りました……すみません
利根姉さん。利根姉さんの大事など、ころを触れる日が来
るなんて思ってもみなかった……。……で、では失礼しま
すッ。……ん……。……何と言いますかその……。……小さいです
いえ、他の艦娘のなんて筑摩もよく知りませんけど！
これでは指も人らなさそうです……。……ああ、毛も少ない
ですし、駆逐艦の子を無理やりしているよう……。

う、ううむ。筑摩に触られていたが、
ボイラーが爆発してしまいか、これは
白分が触る段になってもなかな、これ
照れくさいものじゃな……。……い、い
妹にこんな不埒な思いを抱くなど、艦
ジツプの名折れじゃ……。……さ、さ
たくさんのほら、このひだの部分じゃ、
り筑摩のほうか、このひだの部分じゃ、
るのう。ホレ、このひだの部分じゃ、
輩のはあまり発達して、おは、おは、
おらんじやろ？ 筑摩のおは、おは、
見事に色して、おは、おは、
れは筑摩が一人前である証じゃからな。



大淀、報告す

……重巡洋艦は常に最前線にいて、容易に喪失できない戦艦のかわりに奮闘し、消耗していきましました。水雷戦隊のように、本来意図されたものとはまったく異なる任務ですりつぶされていったわけではなく、多くが敵水上部隊との交戦中に喪われたことは、ある意味で幸運だったのかも知れません。そして、いくつかのネームシップはすべての戦いを終えてなお、傷ついた艦体を水上に晒してました。ほとんどが水底へ消えた軽巡洋艦や駆逐艦との、もうひとつの違いでもあります。そのぶん、より多くの「別離」が生まれることともなりました。……複数の妹艦に見られた、姉艦やネームシップへの強烈な慕情は、そうした想いの果てに生まれたものなのでしよう。



それが彼女たちにとって善いものなのか。結論づけるのは容易ではありませんが、深海棲艦との戦いを有利に進めるために、上手く利用することはできるはず。提督、何故そのような浮かない顔を？ 大丈夫、これでいいのです。たしかに私たちは、あなたの云うとおり艦娘ですが、同時に艦娘でもあります。半分は、あなたがた人間に奉仕するよう宿命づけられているんです。さあ、ご命令を。……明石さんと仲直り、ですか？ ご心配かけて申し訳ございません……。



艦娘としての進水式のおと、はじめて洋上で用を足すことで艦隊の仲間入り……なんて話、白露の冗談だとばかり思ってた。立会人を務めていた比叡さんが「恥ずかしいと思っけど、女の子しかないから……ね」と促してくるまでは、恥ずかしいなんてもんじゃやない。そりゃこの身体なら航行中の生理現象は不可避だし、海で済ませるじかないけど、人前でお、おしっこなんて……。それに、情けないことだけど、まだバランスが上手く取れない。このまましゃがんだりしたらひっくりかえってしまいそうだ。

僕は半泣きで、進水式から手をつないだままの白露を見た。あの日、目の前で散ったたったひとりの姉は、握った手に少し力をこめ、にいつと笑った。

「だいじょうぶ！ 時雨。あたしもいつしよにするから」
何が大丈夫なんだ！

ちよろちよろと、尿が足元の海面をたたく。ポイラーから火が出そうだ。隣では白露が、盛大に前へ向かって放水している。「ふふん！ ここにいる駆逐艦ではあたしがいつちばん遠くまで飛ばせるんだよ！」

カラカラと笑う姉は、しかし、耳まで赤い。それでも僕のためにいつしよにおしっこをしてくれている。また、いつしよに戦える。

「……ありがとう。ねえさん」
おしっこの飛沫のなかに、涙がひとしずく、落ちて混ざった。

■プリンツ・オイゲンと高波が間に合いませんでした……。次の軽空母編（予定）にて必ず。

おしっこれくしょん 重巡洋艦編
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.09

発行日 2015年06月21日

発行サークル LUNATIC PROPHET
web <http://circle.lunaticprophet.org/>
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@y_arim

印刷所 株式会社 くりえい社
web <http://www.kurieisha.com/>